

歴史書 通信

11

2017 No. 234

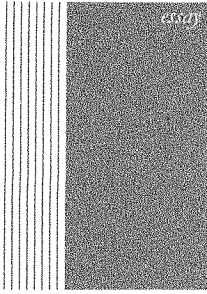
大阪の百舌鳥・古市古墳群が世界文化遺産の
国内候補になる諸課題 [一瀬和夫]

歴史書新刊ニュース (9・10月)

歴史系学会・シンポジウム開催情報



歴史書懇話会



大阪の百舌鳥・古市古墳群が 世界文化遺産の国内候補になる諸課題

一瀬和夫

(京都橘大学文学部歴史遺産学科教授)

この2017年7月31日、文化審議会が世界文化遺産記載の国内候補として2010年にユネスコ（国連教育科学文化機関）の暫定リストに掲載されていた大阪府の堺市、藤井寺市、羽曳野市に広がる「百舌鳥・古市古墳群」を2019年の国内推薦候補とした。

国内推薦は年1件に限られ、今年は「北海道・北東北の縄文遺跡群」と「金を中心とする佐渡鉱山の遺産群」とともに審議された。政府は9月末までにユネスコに百舌鳥・古市古墳群についての暫定版推薦書を提出し、閣議了解などを経て、2018年2月1日までに正式な推薦書を提出する。2015年度の構成資産からは、保全状況が万全ではなく見ただけで墳丘の形がわからないもの10基を除外するなど、逐次、変更してきており、今後も推薦書案の内容は目まぐるしく変わり、そして、2019年夏にユネスコ世界遺産委員会で審査される予定である。

現在、世界遺産は総数1073件で、そのうち文化遺産は832件。日本の文化遺産は、今年7月に記載が決まった『『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産

群』を含めて17件ある。さらに政府は2018年夏の記載を目指し、今年1月に「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」を推薦した。

現在、百舌鳥・古市古墳群の古墳のうち、49基を文化遺産の構成資産とする。古墳群として実際は倍以上が確認されるが、第二次世界大戦後の高度成長時代に破壊されたものは多い。構成する古墳は日本において巨大古墳づくりの最盛期の4世紀後半から5世紀後半を中心に築造され、大王とその関係者が埋葬されたと考えられている。世界最大級から小規模な古墳まで様々なものが造営された。日本古代国家形成期の社会、文化や技術を示す世界的にまれなまとまった物証である。墳丘は地表に立体的に残り、顕著な普遍的価値が視覚的に理解できると評価された。日本列島にあった当時の強大な権力を現地で物量的に実感、体感できる「わかりやすさ」をそなえる。

構成資産は堺市にある21件（23基）と、羽曳野・藤井寺両市にまたがる24件（26基）の計45件（49基）となる。代表的なものは日本最大規模の前

方後円墳「仁徳陵古墳」(大山古墳、墳丘長 486 m)、2 番目の「応神陵古墳」(誉田御廟山古墳、墳丘長 425 m)、続いて「履中陵古墳」(ミサンザイ古墳、墳丘長 360 m)となる。このビッグ3を含んだ巨大前方後円墳と大小様々な形の古墳が集中する古墳時代の古墳群の典型例として、日本で筆頭にあがるのがこの両古墳群である。なおかつビッグ10には5基が入る。この時代は、5世紀を中心に中国や朝鮮半島と外交を繰り返し、中国の歴史書に「倭の五王」として記された大王が生存し、その墳墓が次々に築かれたころに一致する。このことから、東アジアの古代国家諸国の形成と国際関係を物語る一大シンボルともなる。

世界遺産の登録基準には「顕著な普遍的価値 (outstanding universal value)」と呼ばれる言葉がある。それは、「国家間の境界を超越し、人類全体にとって現代及び将来世代に共通した重要性をもつような、傑出した文化的な意義及びまたは自然的な価値」のことを言う。そのような遺産を恒久的に保護することは、国際社会全体にとって最高水準の重要性をもつとされる。

その評価基準には i から x までであり、vi までが文化遺産に適用される基準である。2010 年に地元自治体が示した百舌鳥・古市古墳群の普遍的価値は三つあり、百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録推進本部会議作成『古市古墳

群を歩く』を参考にすると、ii) 巨大古墳は日本列島各地の古墳のモデルで、出土副葬品や埴輪などは各地に大きな影響を与え、古墳文化の中心である。また、馬具やガラス製品などの副葬品は東アジア地域との交流を示す。iii) 群内の巨大古墳は日本列島にあった独特な古墳文化を示す明らかな物的証拠である。仁徳陵古墳や応神陵古墳はその巨大化のピークを示す。iv) 各古墳は膨大な労働力の結集の大規模モニュメント、他国に類例のない前方後円墳は独特な墳墓であり、その築造技術は独自の発展を示す。あわせ、真実性や完全性については4世紀後半から6世紀前半の築造時期が確認され、各古墳が築造以後1600年を経た今も原形を保つ。また、ほかの類似資産の中で両古墳群は群としても卓越する。それとともに、世界の巨大墳墓の中でも前方後円墳という特殊で複雑な形態に類似はなく、一つの墳墓としての規模も世界最大級である。

2010年の暫定リスト記載以降、2013年から国内候補を3度落選し、今回が4度目であった。というのは、文化審議会は古墳群が大和政権の影響下で広まった古墳文化の象徴であることや、密集した地域に多様な形や大きさの古墳があることの価値は認めるが、百舌鳥・古市古墳群には数多くの問題と課題があるとしていたからである。

この度の推薦決定の報道はその普遍的価値の国民への周知はほとんどなく、

政治的・経済的な話題が主流で、地元
の受入や観光資源への利用に熱をあげ
ていた。そのうち、学問的かどうかは
わからないが、古墳の呼称と天皇陵内
立ち入り問題も取りあげられた。どち
らかとさえ言えばこれは社会問題なので
あろう。世界文化遺産として政治的・経
済的・社会的・環境的・文化的に持続
可能なかどうか。そういったことが
国民の関心の順序であったかのよう
だ。それらの働きかけはトップダウン
かボトムアップか。記者発表当時、大
阪府庁には世界文化遺産登録推進本
部会議メンバーらが集合。会長の松
井一郎（大阪府知事）、本部長の竹山
修身（堺市長）らが登場した。高さ80
mの堺市役所 21 階で堺市の広報キャ
ラクター「ハニワ課長」が両手でガッ
ツポーズ。8月3日に堺都市政策研究
所は、実際に世界文化遺産に選ばれた
場合の経済効果を試算し、遺産登録後
1年で、堺市ではおよそ340億円、大
阪府全体ではおよそ1000億円にのぼ
り、堺市を訪れる観光客は2015年度
のおよそ1000万人から2019年度には
およそ1700万人まで増える見込みと
発表した。今のところトップダウンに
しか思えないが、「いまだ大きな課題
を抱えており、世界遺産委員会や諮問
機関による審査や評価次第では推薦の
内容の見直しや取り下げの可能性も
ある」とも言う。ここではこの度の報
道内容をもちいて、本質的価値にかか
わるものから、その様々な課題を覚え

き的に列挙する。

まず、「顕著な普遍的価値」について、
府と3市は古墳の大きさや形で埋葬者
の政治的身分などを示す「階層性」を
五つに細分したが、文化審議会は「分
かりづらい」、欧米の学者も「事実と
解釈」を分けるべきとし、この解釈を
価値の説明から削除することを求めた。
世界を納得させる証拠があるのである。
このことから、200～400mの前方後
円墳のみを事実説明の中心にすえよう
とした。これでは前方後円墳だけとい
うことになり、ことは単純すぎる。本
来は前方後円墳、円墳、方墳など多様
な大きさや形の古墳が密集して展開、
推移する独特な古墳群という叙述を優
先すべきである。

さらに、巨大古墳のみを抽出するこ
とは天皇陵古墳にそなわる当初からの
問題に突き当たる。49基中29基が宮
内庁の管理の陵墓にあたり、これに大
規模墳がほぼ含まれる。つまり、構成
資産が天皇陵古墳で終始することにな
る。これら古墳の墳丘の大きさや埴輪、
ひいては築造時期など基礎的な情報は
得られているとされるが、群形成の説
明のために、小さな古墳を取り除くこ
とによって、その過程と古墳集積の事
実の明確化が閉ざされてしまう。

そもそも百舌鳥・古市古墳群には歴
代の天皇・皇后、皇族の「陵墓」とさ
れる古墳が多い。その上、天皇陵古墳
の墳丘本体への立ち入りは制限され
る。5世紀の資料としてワカタケルと

象嵌された副葬品の鉄刀・剣が地方豪族の古墳から出土しており、雄略天皇、中国史書の武とみなされる人物像の实在がかりうじて確認できる程度である。本格的に实在視が許されるのは、6世紀の継体天皇的な人物像以降になる。被葬者が不明確である上に、築造時に天皇という用語がないというのは実にはがゆい。宮内庁管理ゆえ、仁徳天皇陵の呼称も使われるが、英訳で Imperial mausoleum などと記すと、はなはだ誤解を生む。明治時代に日本の古墳を調査したイギリス人のウイリアム・ゴランドは Burial mound、Double mound とする。適切な英語を探すという課題もある。

森浩一は当初、仁徳天皇陵と呼ばれる古墳ということで「仁徳陵古墳」とした。しかし、これでは仁徳天皇陵という誤解が解けないとして、1971年に陵墓名をやめてふつうの遺跡命名法で天皇陵古墳を呼ぶ案を唱えた。そのルールは、いずれも後に「古墳」をつけるというものである。同名の古墳名が多いときは大字や小字を冠する。あくまでも研究の便宜上の名称とした(『古墳と古墳文化99の謎』サンボウ・ブックス102、産報)。その後、小学校教科書を中心に仁徳陵古墳を「大山古墳」とするが、高校など一部のものでは「大仙陵古墳」であり、名称が学会で統一表示されず、一枚岩でない。ちなみに森が最初に名づけたのは、仲哀→岡・みさんざい、応神→誉田山、仁

徳→大山、履中→百舌鳥・陵山、反正→田出井山、允恭→市の山、清寧→白髪山、仁賢→ほげ山、仲ッ姫→仲ッ山、土師にさんざい、誉田墓山、津堂城山、軽里白鳥、御廟山といった具合である。ほとんどこの呼称は正確には使われていない。

この度の最も重要な指摘は、二つの古墳群を一体とする説明である。ほかの大規模古墳群と差別化する説明に改善の余地があるとする。百舌鳥と古市という離れた場所をどうつなぐのか。一方、いかに奈良市佐紀、大和高田市馬見といった同時期の畿内にはほかにある似た古墳群や前後する3・4世紀、6・7世紀の大型墳と差別化を図るか。

宮内庁の測量図や小規模な発掘調査が公表されるが、現地に訪れると古墳は立ち入り禁止、樹木に覆われ姿はわかりづらい。有名な鍵穴のような形を見たい人は多い。しかし、大きすぎて地上からは森のようにしか見えない。バーチャルでも現地ではピンと来ない。「がっかり遺産」とも言われる。わざわざその場まで来ても古墳の全容を知るのに不十分という評価は根強い。

市街地に点在する古墳を「群」として認め、体感できるか。そのためには古墳相互からの視点の連続性がある。宮内庁の墳丘本体管理が続くなか、周辺では現在も宅地化が進んでいる。景観を適切に保護するために「緩衝地帯(バッファゾーン)」を設定したが、そ

の実効性はいかに。建物の高さや広告看板の規制、ビューポイントの確保がある。この巨大古墳群は眺望遺産でもあるのだ。

こうした課題が突きつけられるなか、様々な施策が打ち出されている。古墳群にかかわるアイデアとその実行力はあればあるほど頼もしい。地元自治体や企業などは、古墳群の魅力を発信する取り組みをはじめた。堺市と南海電鉄は、堺東駅と堺駅（堺市堺区）に「世界文化遺産を大阪に」と書かれた観光案内カウンターを設営し、古墳群のパンフレットや古墳群を巡るレンタサイクルのガイドブックを設置、古墳群へのアクセスやバス乗り場の案内等を行っている。また、南海電鉄の難波や新今宮など主要駅から堺東、堺駅までの割引往復乗車券と阪堺電気軌道や南海バスの1日フリー乗車券、堺市博物館の観覧券などがセットになった企画乗車券「ハニワ課長のさかい最高きっぷ」も販売。堺市博物館は、堺伝統の技法「注染」で染め上げた「古墳柄手ぬぐい」や百舌鳥古墳群の古写真などの絵はがき、古墳デザインの鉛筆や下敷きを作製した。仁徳陵古墳近くの大仙公園では、キッチンカーによるマルシェも開催する予定である。羽曳野市市制施行60周年ロゴマークの募集も行われた。

また、2019年度末までに、仁徳陵古墳の西側に展望デッキを備えたガイダンス施設が建設される。海の方角か

らの視点で、墳丘の大きさや奥行きを感じさせる計画のようだが、風致地区内の建物高は15mに制限されており、何を展望させるのか。展望デッキに上っても古墳の形はわからないと予想される。市は観光客らを気球に乗せる企画を検討し、堺市博物館ではバーチャルリアリティー（VR）の疑似体験ツアーをはじめた。小型機の遊覧飛行ツアー企画もある。空からの企画は多い。ただし、個人でもその気になれば、関西空港や伊丹空港の発着陸時に、旅客機からたやすく見ることができる大きさなのだが（表紙写真参照）、それゆえ、遠望からの知名度を高めていく作業もいる。

今年2月に大阪府、堺市、羽曳野市、藤井寺市より「百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録応援大使」に任命された歌手のレキシが、古墳を模した特注の被り物をかぶって全面PR。JR山手線車体広告を実施し、大阪をこえて宣伝した。また10月には大阪城西の丸庭園で初の野外ライブが予定されている。

様々な企画が唱えられるが、本質的な保護や管理について課題は多い。古墳の濠ほりの水の波や生い茂る樹木で墳丘部が崩れ、濠に産業廃棄物が捨てられ大量発生したアオコが腐り異臭を放つ。東西に約10キロ離れる百舌鳥—古市間の移動方法にも模索が続く。この距離感を利用して、他国のように、一週間ほどツアーをしても十分に楽しめるような世界遺産になればよいのだが。

〈表紙写真〉

市街地に囲まれる仁徳陵古墳と百舌鳥古墳群（上：北西上空ヘリから、下：西真上上空旅客機から）

歴史書懇話会ホームページ

<http://www.hozokan.co.jp/rekikon/>

歴史書懇話会会員社ホームページ

明石書店	http://www.akashi.co.jp/
校倉書房	http://www.azekurashobo.com/
思文閣出版 (体会)	https://www.shibunkaku.co.jp/
東京堂出版	http://www.tokyodoshuppan.com/
刀水書房	http://www.tousuishobou.com/
同成社	http://www.douseisha.co.jp/
塙書房	http://rr2.hanawashobo.co.jp/
法藏館	http://www.hozokan.co.jp/
ミネルヴァ書房	http://www.minervashobo.co.jp/
山川出版社	https://www.yamakawa.co.jp/
吉川弘文館	http://www.yoshikawa-k.co.jp/

新刊ニュース

9・10月の新刊 *発売予定のものもあります

歴史一般

事典／年表・地図／歴史学・補助学

ノーベル賞の記録編集委員会編

(仮) ノーベル賞 116年の記録

B5判 160頁 1,600円

山川出版社 [10月刊]

ノーベル賞各部門の受賞者を年ごとに受賞内容と共にすべて網羅。後々まで大きな影響を与えたものに関しては写真と解説も付した画期的な一冊。

978-4-634-15123-9

考古学

概論・通史／日本／アジア／ヨーロッパ／アフリカ／アメリカ／その他

斎野裕彦著

津波災害痕跡の考古学的研究

B5判 258頁 9,000円

同成社 [9月刊]

東日本大震災を実体験した著者が、今後の防災を目的に、考古・文献・地質学などを駆使し津波災害痕跡の調査法とその分析法を提示する。

978-4-88621-762-2

富山直人著

古墳時代社会の比較考古学

B5判 258頁 9,000円

同成社 [9月刊]

古墳時代の社会発展過程について集落構造や古墳の副葬品配置などをもとに比較考古学の視点から考究し、流通などの社会内部要素を細やかに導き出す。

978-4-88621-766-0

澤田秀実著

前方後円墳秩序の成立と展開

B5判 242頁 8,000円

同成社 [10月刊]

前方後円墳の築造企画や三角縁神獣鏡の製作動向を緻密に分析。前方後円墳成立期の暦年代を示し、当時の政治秩序の実態を解明する。

978-4-88621-769-1

小林正史編

モノと技術の古代史 陶芸編

A5判 286頁 6,000円

吉川弘文館 [9月刊]

貯蔵・調理・食事に使われた壺、鍋釜、鉢・坏などの土器。民族誌の比較に基づいて各器種の使い方と製作技術の工夫を描く。

978-4-642-01738-1

文化庁・奈良文化財研究所・奈良県立橿原考古学研究所・明日香村教育委員会編
特別史跡 高松塚古墳発掘調査報告

高松塚古墳石室解体事業にともなう発掘調査(国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策事業報告書1)

A4判 316頁 15,000円

同成社 [9月刊]

国宝高松塚古墳石室解体にともなう報告書全3巻第1冊目の発掘調査報告書。付図19葉。詳細な石室構造や壁画の劣化原因等重要記録を収録。

978-4-88621-773-8

日本史

概論・通史／史料／古代／中世／近世／近代／現代／地方史

国立歴史民俗博物館編

わくわく!探検 れきはく日本の歴史 3

近世

B5判 86頁 1,000円

吉川弘文館 [9月刊]

小中学生が日本の歴史と文化を楽しく学べる新シリーズ。近世の展示をもとにしたストーリー性重視の構成で、大人も楽しめる「紙上博物館」!

978-4-642-06823-9

- 飯村 均・室野秀文編
東北の名城を歩く 北東北編
樽森・岩手・秋田
A 5判 284頁 2,500円 吉川弘文館 [10月刊] 978-4-642-08319-5
- 前田晴人著
物部氏の伝承と史実
四六判 234頁 2,300円 同成社 [9月刊] 978-4-88621-772-1
- 中田興吉著
倭国末期政治史論
A 5判 402頁 9,500円 同成社 [9月刊] 978-4-88621-761-5
- 若井勲夫著
和氣清麻呂にみる誠忠のこころ
古代より平成に至る景仰史
A 5判 484頁 8,000円 ミネルヴァ書房 [10月刊] 978-4-623-07915-5
- 倉本一宏編
現代語訳 小右記 5
紫式部との交流
四六判 310頁 2,800円 吉川弘文館 [10月刊] 978-4-642-01820-3
- 小口雅史編
律令国家と北方世界
(古代史選書 28)
A 5判 400頁 7,500円 同成社 [10月刊] 978-4-88621-775-2
- 梶原義実著
古代地方寺院の造営と景観
B 5判 240頁 9,000円 吉川弘文館 [10月刊] 978-4-642-04638-1
- 前田英之著
平家政権と荘園制
A 5判 320頁 8,000円 吉川弘文館 [10月刊] 978-4-642-02939-1
- 四国地域史研究連絡協議会編
四国の近世城郭
(岩田書院ブックレット・歴史考古学系H 23)
A 5判 150頁 1,700円 岩田書院 [10月刊] 978-4-86602-007-5
- 近藤祐介著
修験道本山派成立史の研究
(歴史科学叢書)
A 5判 312頁 8,000円 校倉書房 [10月刊] 978-4-7517-4770-4
- 横山住雄著
中世美濃遠山氏とその一族
(岩田選書◎地域の中世 20)
A 5判 146頁 2,000円 岩田書院 [9月刊] 978-4-86602-999-3

榎原雅治・清水克行編

室町幕府将軍列伝

四六判 424頁 3,200円

戎光祥出版 [9月刊]

室町幕府の15人の将軍を徹底紹介する画期的な歴史書。暗殺、更迭、京都からの追放など波瀾万丈な将軍たちの生涯とエピソードを紹介。

978-4-86403-247-6

久保健一郎著

中近世移行期の公儀と武家権力（仮）

（中世史選書 23）

A5判 320頁 7,000円

同成社 [10月刊]

「戦国大名」概念に歴史学から疑義が呈されている。武家権力の政策と編成原理の実態を「公儀論・家中論」という独自視点から追究する。

978-4-88621-776-9

荒川善夫・新井敦史・佐々木倫朗編

戦国遺文 下野編 第1巻

A5判 380頁 17,000円

東京堂出版 [9月刊]

下野国の戦国大名である、宇都宮氏・那須氏・小山氏・皆川氏の発給・受給文書、家臣の文書、関連文書などを収録。全3巻で刊行開始。

978-4-490-30774-0

木下 聡編

豊臣期武家口宣案集

A5判 256頁 18,000円

東京堂出版 [10月刊]

武家の口宣案をまとめた初の史料集。官位一覧表は、その時、誰がどの地位にあったのかが一目で分かり、様々な研究・分析に役立つ。

978-4-490-20970-9

五味文彦著

文学で読む日本の歴史 戦国社会篇

四六判 480頁 2,000円

山川出版社 [9月刊]

応仁の乱がもたらしたものと、その後日本の礎がどのように造りだされたのかを記した画期的な書。「応仁の乱」呉勇庵一の恩師が紡ぐ壮大な一冊。

978-4-634-15118-5

伊川健二著

世界史のなかの天正遣欧使節

四六判 234頁 2,800円

吉川弘文館 [9月刊]

ヨーロッパで文化交流の記録を残し帰国した天正遣欧使節。イエズス会日本開教以来の遣欧計画、旅程、彼らの知的遺産から全貌に迫る。

978-4-642-08325-6

垣内和孝著

伊達政宗と南奥の戦国時代

A5判 302頁 9,000円

吉川弘文館 [9月刊]

南奥が佐竹氏の侵攻を契機に伊達政宗による統一に向かう様相を描く。伊達・蘆名に築かれた城館の姿など、文献・考古両面から追究。

978-4-642-02938-4

竹井英文編著

最上義光

（シリーズ・織豊大名の研究 第6巻）

A5判 420頁 6,500円

戎光祥出版 [9月刊]

出羽国を本拠に活躍した戦国大名・最上義光の政治的動向を、家臣団構成や支配体制、発給文書、城郭などを基に考証する研究論文集。

978-4-86403-257-5

愛知中世城郭研究会編

三河岡崎城

家康が誕生した東海の名城（シリーズ・城郭研究の新展開 第3巻）

A5判 260頁 3,800円

戎光祥出版 [10月刊]

徳川家康出生の地として知られる三河の拠点城郭。縄張り・石垣・出土遺物・城下町・支配体系などについて城郭研究者たちが詳解します。

978-4-86403-260-5

野田浩子著

井伊直政

家康筆頭家臣への軌跡（中世武士選書 第39巻）

四六判 234頁 2,500円

戎光祥出版 [10月刊]

「徳川四天王」として井伊家の基礎を築いた彦根藩祖・井伊直政の生涯と卓越した交渉能力を、豊富な史料を駆使して描き出して参ります。

978-4-86403-262-9

久野雅司著

足利義昭と織田信長

傀儡政権の虚像（中世武士選書 第40巻）

四六判 222頁 2,500円

戎光祥出版 [10月刊]

織田信長により将軍の座を追われた室町幕府15代将軍・足利義昭。本書では両者の長年の死闘を、各種史料を用いて検証・紹介します。

978-4-86403-259-9

大西泰正著

宇喜多秀家

（シリーズ・実像に迫る 第13巻）

A 5判 112頁 1,500円

戎光祥出版 [10月刊]

岡山城主として57万石を領し、豊臣政権の中樞を支えた戦国武将・宇喜多秀家の生涯を、豊富な史料、図版を用いて解説いたします。

978-4-86403-261-2

富善一敏著

近世村方文書の管理と筆耕

民間文書社会の担い手（歴史科学叢書）

A 5判 272頁 8,000円

校倉書房 [9月刊]

近世は文書主義の社会となった。文書の作成および管理のあり方と、その担い手と意識を検討し、近世民間文書社会の特質を解明しようとした。

978-4-75174760-5

中野達哉編

鎌倉寺社の近世

転換する中世的権威

A 5判 210頁 2,800円

岩田書院 [9月刊]

『建長寺史』編纂過程で得られた成果を中心に、幕府の寺社政策、寺社領の構造、祠堂金貸付、異国船退散祈禱など6編を取録。

978-4-86602-985-6

斉藤 司著

煙管亭喜荘と「神奈川砂子」

近世民間地誌の成立と地域認識（近世史研究叢書46）

A 5判 296頁 6,400円

岩田書院 [10月刊]

文政7年に編纂された民間地誌「神奈川砂子」と、その前年の「神奈川駅中図会」から、神奈川宿に対する地域認識を考察。

978-4-86602-002-0

近代茨城地域史研究会編

近世近代移行期の歴史意識・思想・由緒

A 5判 258頁 5,600円

岩田書院 [10月刊]

近世後期～明治中期の茨城県域に関する8編。執筆：佐々木寛司・門馬・飯塚・林・清水・桐原・木戸・菅川・天野。

978-4-86602-003-7

山口和夫著

近世日本政治史と朝廷

A 5判 446頁 9,500円

吉川弘文館 [10月刊]

戦国期に衰退した朝廷は、いかにして近世を迎えたのか。院（上皇）をめぐる諸問題、朝幕体制が解体してゆく契機などを追究する。

978-4-642-03480-7

八坂友広著

闘いを記憶する百姓たち

江戸時代の裁判学習帳（歴史文化ライブラリー454）

四六判 208頁 1,700円

吉川弘文館 [9月刊]

江戸時代、百姓一揆の訴状が民衆の読み書き教材として流布した。彼らはいかに先人の記憶を受け継ぎ、権力と闘う力を得たのか。

978-4-642-05854-4

笠谷和比古著

真田松代藩の財政改革

『日暮硯』と恩田空（読みなおす日本史）

四六判 172頁 2,200円

吉川弘文館 [9月刊]

財政破綻に直面した真田松代藩の再建を託された恩田空。その改革過程を描き、『日暮硯』から再建成功の理由とリーダーの資質を検証。

978-4-642-06730-0

明治維新史学会編

明治維新と外交

（講座 明治維新6）

A 5判 314頁 3,400円

有志舎 [9月刊]

19世紀後半に地球規模で起こったグローバリゼーションの波。それに対応して発生した維新変革の姿を描き出す。

978-4-908672-15-6

平山 洋著

「福沢諭吉」とは誰か

先祖考から社説真偽判定まで

四六判 270頁 3,500円

ミネルヴァ書房 [10月刊]

近代日本を代表する言論人・福沢諭吉のいまだ十分に探られてこなかった重要な論点。関係資料の紹介とともに、それらの解明を試みる。

978-4-623-08069-4

飯塚一幸著

明治期の地方制度と名望家

A 5判 324頁 9,500円

吉川弘文館 [10月刊]

名望家層による地域振興、土木事業などに着目し、地域社会の視点から再検討。行政単位としての府県が公共空間へ変貌する過程を描く。

978-4-642-03868-3

山谷裕哉編

郷土の記憶・モニュメント

(岩田書院ブックレット 歴史考古学系H 22)

A 5判 154頁 1,800円 岩田書院 [10月刊]

郷土と記念物を国民国家形成の流れの中で考察する5編。執筆：山谷・佐藤喜久一郎・石本敏也・及川高・時枝務。

978-4-86602-004-4

黄 自進・劉 建輝・戸部良一編著

〈日中戦争〉とは何だったのか

複眼的視点

A 5判 416頁 6,500円 ミネルヴァ書房 [10月刊]

新たな歴史認識の共有のために。日本・中国・台湾の研究者がそれぞれの視点から「あの戦争」を問いなおす。

978-4-623-07995-7

齋藤 孝著

齋藤孝の一気に読み！日本近現代史

四六判 272頁 1,600円 東京堂出版 [9月刊]

黒船来航から明治維新、戦争の時代、そして戦後の高度経済成長から現在まで。150年の流れがすっと頭に入る、語りおろし日本近現代史。

978-4-490-20972-3

飯澤文夫編

地方史文献年鑑 2016

郷土史研究雑誌目次総覧

A 5判 640頁 25,800円 岩田書院 [9月刊]

2016年に刊行された地方史研究雑誌1620誌の目次を、県別・雑誌ごとに収録。連絡先・所蔵先等の他、雑誌索引を付す。

978-4-86602-006-8

池 享・櫻井良樹・陣内秀信・西木浩一・吉田伸之編

みる・よむ・あるく 東京の歴史 1

通史編1 先史時代～戦国時代

B 5判 160頁 2,800円 吉川弘文館 [10月刊]

3つのコンセプトで読み解く新たな“東京”ヒストリー。人びとの暮らしや社会の動きに視点を置き、先史から戦国時代の歩みを描く。

978-4-642-06826-0

世界史

概論・通史／アジア／ヨーロッパ／アフリカ／アメリカ／オセアニア

ジェフリー・ブレイニー 著／南塚 信吾 監訳

小さな大世界史

アフリカから出発した人類の長い旅

四六判 400頁 2,800円 ミネルヴァ書房 [9月刊]

「黒いコロンブス」の出アフリカ、「放蕩息子」ブツダ、インディゴブルーの真実……。本書を読めば、世界史がもっと面白くなる！

978-4-623-07140-1

B. シンメルベニツヒ 著／甚野尚志他訳

ローマ教皇庁の歴史

古代からルネサンスまで (人間科学叢書 47)

A 5判 500頁 6,000円 刀水書房 [10月刊]

古代ローマのキリスト教信徒共同体から教皇庁の基盤が確立した15世紀までの世界中で最も読まれている概説書。制度・財政・儀礼を網羅し従来の理解への徹底的批判も。

978-4-88708-432-2

櫻井澄夫、人見豊、森田憲司編著

北京を知るための60章

(エリア・スタディーズ)

四六判 360頁 2,000円 明石書店 [10月刊]

魅力の尽きない都、北京の歴史と街並みを紹介すると同時に、驚嘆すべき発展を遂げている新しい北京とそこに暮らす人々を紹介する。

未定

戸崎哲彦著

柳宗元

(世界史リブレット 17)

A 5変型 96頁予定 800円 山川出版社 [10月刊]

安史の乱後、動揺する政治を改革しようとした柳宗元。改革に失敗した後も「政治は民のためにある」という観点を貫徹したその人生を追う。

978-4-634-35017-5

大野誠著

ワットとスティーヴンソン

産業革命の技術者 (世界史リブレット 59)

A 5変型 104頁予定 800円 山川出版社 [10月刊]

現代の工業社会を生み出した蒸気機関と蒸気機関車。発明者のワットとスティーヴンソンの生涯を追いながら、発明の基盤を明らかにする。

978-4-634-35059-5

小田 健著

ロシア近現代と国際関係

歴史を学び、政治を読み解く

A 5判 444頁 4,000円

ミネルヴァ書房 [9月刊]

元日経新聞モスクワ支局長が、ロシアの近現代史と国際関係史を解説。ロシアをめぐる現代の国際情勢を読み解く力を養うのに最適。

978-4-623-08087-8

柴 宜弘、アンドレイ・ベケシュ、山崎 信一編著

スロヴェニアを知るための60章

(エリア・スタディーズ)

四六判 372頁 2,000円

明石書店 [9月刊]

1991年の独立以降、旧ユーゴ諸国の中で最も早く民主化体制を整え存在感を増しつつある小国の魅力を活写。

978-4-7503-4560-4

服部倫卓、越野剛編著

ベラルーシを知るための50章

(エリア・スタディーズ)

四六判 356頁 2,000円

明石書店 [9月刊]

1991年のソ連解体に伴い初めて独立国となった、東スラブ系のベラルーシ民族を主体とした新興国ベラルーシ共和国を紹介する。

978-4-7503-4549-9

アレクセイ・ユルチャク著 半谷史郎訳

最後のソ連世代

ブレジネフからベレストロイカまで

四六判 536頁 6,200円

みすず書房 [10月刊]

ソ連崩壊とは一体何だったのだろうか？ソ連の人びとの生活を照らし出し、崩壊の謎に迫る。ソ連社会を知る必読書。

978-4-622-08642-0

網野徹哉著

インディオ社会史

アンデス植民地時代を生きた人々

A 5判 400頁 5,500円

みすず書房 [9月刊]

異文化が交差し、利害集団の交錯する植民地世界を生きるとは。通辞と征服、インカの呪文と女たち…先住民の実存をみごと掬いあげる。

978-4-622-08630-7

文化史 文化史一般／政治・外交・経済／思想・宗教／教育・科学／文学・美術・芸術／社会生活

増田美子編・梅谷知世・大久保高子・能澤慧子・山岸裕美子著

図説 日本服飾史事典

B 5判 320頁 24,000円

東京堂出版 [9月刊]

原始・古代から現代まで日本人の着衣の変遷を解説するカラー図説。600点の写真・図版を掲げ、衣装の細部説明も充実した新しい日本服飾史。

978-4-490-10868-2

大隅和雄著

日本文化史講義

四六判 224頁 2,400円

吉川弘文館 [10月刊]

神話の時代から現代に至る思想・宗教・文学・芸能など幅広い事象を講義形式で解説。その複雑な性格と、豊かな内容を明らかにする。

978-4-642-08326-3

関口 健著

法印様の民俗誌

東北地方の旧修験系宗教者

A 5判 400頁 8,900円

岩田書院 [9月刊]

山形県内陸部を中心に今も活動を続けている法印様（ほういんさま・ほういんさん）と、法印様に拜んでもらう人々の姿を描く。

978-4-86602-005-1

ジョン・ラスキン著／内藤史朗訳

続ヴェネツィアの石

ルネッサンスとグロテスク精神

四六判 305頁 3,200円

法藏館 [10月刊]

ヴェネツィアの宮殿や教会、墓廟を訪ね、ゴシックからルネッサンスへの移行をそれを巡る人間性の変化に着目。人と芸術の関わりについて示唆に満ちたルネッサンス論。

978-4-8318-8179-3

今井雅晴著

日本の奇僧・快僧

読みなおす日本史

四六判 204頁 2,200円

吉川弘文館 [10月刊]

道鏡・西行・文覚・一遍・一休…。超能力や新しい信仰のかたちで人々の心をとらえ、時代を変えていった彼らの行動と実像を検証する。

978-4-642-06755-3

鎌田東二・南直哉著

死と生

恐山至高対談

四六判 320頁 1,900円

東京堂出版 [9月刊]

気鋭の禅僧と宗教哲学者が、現代のこころの危機、仏教の未来など、死者のいる場所・恐山をとおして、生きる事のあり方を鋭く問う。

978-4-490-20971-6

佐藤至子著

江戸の出版統制

弾圧に翻弄された戯作者たち（歴史文化ライブラリー 456）

四六判 240頁 1,700円

吉川弘文館 [10月刊]

取り締まりの対象となった山東京伝の作品など戯作の文学的魅力と処罰の理由を探る。形を変え現代に続く出版統制をめぐる攻防の歴史。

978-4-642-05856-8

佐藤至子著

江戸の出版統制

弾圧に翻弄された戯作者たち（歴史文化ライブラリー 456）

四六判 240頁 1,700円

吉川弘文館 [10月刊]

取り締まりの対象となった山東京伝の作品など戯作の文学的魅力と処罰の理由を探る。形を変え現代に続く出版統制をめぐる攻防の歴史。

978-4-642-05856-8

野口 剛・五十嵐公一・門脇むつみ著

雅の近世、花開く宮廷絵画

江戸時代前期（天皇の美術史 4）

A 5判 260頁 3,500円

吉川弘文館 [9月刊]

狩野探幽や依屋宗達が宮廷に好まれたのはなぜか。琳派の展開や、自ら絵筆をとる天皇・皇族の姿など、雅やかな京都画壇の実像を探る。

978-4-642-01734-3

高津 毅著

日本古代中世の葬送と社会

A 5判 366頁 8,500円

吉川弘文館 [9月刊]

古代中世の人々はいかに葬送を執り行っていたのか。葬送の時刻や儀礼・習俗、関与した人々と役割などを解明し、当時の死生観に迫る。

978-4-642-04637-4

田中宣一著

柳田国男・伝承の「発見」

A 5判 190頁 2,600円

岩田書院 [9月刊]

明治末～昭和初期の柳田を中心に、伝承・昔話、そして菅江真澄を「発見」していく経緯を考察する。

978-4-86602-001-3

伝記

小池 進著

保科正之

（人物叢書 290）

四六判 328頁 2,300円

吉川弘文館 [10月刊]

江戸前期の会津藩主。父は徳川秀忠。将軍家綱を後見して幕府支配体制を安定させ秩序化へと導いた。家訓十五条を遺した生涯を描く。

978-4-642-05283-2

川村邦光著

出口なお・壬仁三郎

世界を水晶の世に致すそよ

四六判 520頁 3,800円

ミネルヴァ書房 [9月刊]

二人が開祖・聖師となる過程を近代日本と民俗社会の相剋の中から辿るとともに、その思想の創造性を考察する。

978-4-623-08120-2

木下隆男

評伝 尹致昊

「親日」キリスト者による朝鮮近代 60年の日記

A 5判 480頁 6,600円

明石書店 [10月刊]

近代朝鮮唯一の民族独立啓蒙家でありながら日本統治に協力したため「親日派」の汚名を負わされた尹致昊。彼の日記から苦渋の姿を見る。

978-4-7503-4562-8

地 理

石村 智著

よみがえる古代の港

古地形を復元する (歴史文化ライブラリー 455)

四六判 266頁 1,800円

吉川弘文館 [10月刊]

GIS (地理情報システム) を駆使して全国を探索し、土砂が堆積して陸化する前の景観を復元。船・人・物の往來の実態を描き出す。

978-4-642-05855-1

雑 誌

日本歴史

日本歴史学会編集

10月号 (第833) = 9月刊

11月号 (第834) = 10月刊

日本史専門の月刊誌として、また最も親しみやすい歴史知識の普及誌として、研究者から一般社会人まで、幅広い各層が購読。

一年間直接購読料 8,300円 [税・送料込]

◆各種割引制度有

二年間前払い 16,000円 [税・送料込]

三年間前払い 23,500円 [税・送料込]

学生・院生 一年間 5,000円 [税・送料込]

A5判 10月号 = 130頁、11月号 = 130頁

10月号 = 741円、11月号 = 741円

吉川弘文館 [9・10月刊]

歴史系学会・シンポジウム開催情報

第27回 神保町ブックフェスティバル

チョット汚れておりますが…「本」の得々市バーゲンセール

会期= 2017年11月3日～5日 会場=神保町すずらん通り*

◆問合せ=神保町ブックフェスティバル実行委員会 電話 03-3263-6601

東方学会 平成29年度秋季学術大会

会期= 2017年11月11日 会場=日本教育会館

◆HP = 詳細あり

◆問合せ=東方学会事務局 iec@tohogakkai.com ◆申込方法=メール・FAXで11月2日までに申込み

史学会 第115回大会

公開シンポジウム「ロシア革命から20世紀史を考える」(11/11)

日本近世史シンポジウム「近世の地方都市」(11/12)

日本近現代史シンポジウム「戦後史のなかの「国家神道」」(11/12)

会期= 2017年11月11日～12日 会場=東京大学 本郷キャンパス*

◆問合せ=史学会事務局 shigaku@i.u-tokyo.ac.jp ◆HP = 詳細あり

第7回 榎原考古学研究所 東京公開講演会

「王権は移動したかー纏向から柳本へー」

会期= 2017年11月25日 会場=よみうり大手町ホール(東京都千代田区大手町1-7-1)*

◆問合せ(事務局)=奈良県立榎原考古学研究所 電話 0744-24-1101(代) ◆HP = 詳細あり

◆申込方法=ハガキで申込、応募者多数の場合は抽選

歴史科学協議会 第51回大会 【大会全体テーマ】歴史における危機と復興の諸相Ⅱ

会期= 2017年11月25日～26日 会場=早稲田大学早稲田キャンパス

◆問合せ=歴史科学協議会事務局 rekihyo@mx10.ttcn.ne.jp ◆HP = 詳細あり

* 印の会場では、歴史書懇話会による出張書籍販売がございます。

歴懇ニュース

……歴懇フェアのお知らせ……

◆私たち歴史書懇話会は、月代わりで「歴史書懇話会・今月のオススメ」の連続ミニフェアを次の6書店で開催中です(かっこの数字はフェア開始の日付)。◇天童市TENDO八文字屋(2006年7月～)◇新潟市紀伊國屋書店新潟店(2007年8月～)◇松江市今井書店グループセンター店(2008年6月～)◇大阪市喜久屋書店阿倍野店(2013年11月～)◇出雲市今井書店出雲店(2014年7月～)◇名古屋市ジュンク堂書店ロフト名古屋店(2015年6月～)。…お近くにお越しの折には、是非お訪ねください。

◆普通の人々を巻き込んだテロや無差別爆撃が起り、世界は今、混沌を極めています。9月9日夜ETV特集「アフガニスタン・山の学校」を観ました。

アフガニスタンの戦士マスードの密着取材で知られるフォトジャーナリストの長倉洋海は、30年以上も世界の辺境や紛争地を歩き、そこに生きる人々や出来事を写真を通して伝えてきた。1979～89年のアフガン戦争当時、北部同盟の指導者だったマスードに500日間も同行取材し、マスードという人物を通じて、長倉は日本人たちにアフガン戦争を伝えたかったのだ。どんな人が戦っているのかを知れば、遠い場所で起きている戦争に関心を持ってくれるだろうと思い、「死ぬこと、生きること、恋人はいるか、結婚をどう思っているか……」同世代の若者として聞いてみたいことがたくさんあった。そのマスードは、戦いの中で、できるだけ戦いを避けようとした人だった。地域の会議の決定を何より大事にし、お年寄りを敬うよきイスラム教徒であり、侵略者とは戦うが、世界中の人や国々と仲良くしたいという気持ちを持っていた。

しかし、16年前の9月9日、マスードはテロ組織アルカイダのメンバーとされるアラブ人により暗殺された。もしこのマスードが生きていたなら? 今年5月、マスードとマスードが愛していたアフガンの子どもたちの写真展を開いた。少数の過激派によってイスラムには悪いイメージが付きまとう。しかしマスードならば、本当のイスラムの姿を体現して世界に伝えることができたはずだ。今、大多数のよきイスラム教徒たちの声が届いていないことがとても残念だ。マスードは「私がテロとの戦いをやめたら、このテロは世界に広がる」と予言していた。長倉はその時点では、アフガニスタンにいるアルカイダやタリバンのような過激な思想がこれほど世界に広がるとは思っていなかったが、マスードには分かっていたのだ。

かつて長倉は、左翼ゲリラと政府軍との内戦が続く中米の現地に入り、戦場の危険よりも、市場で野菜や新聞を売って働く子どもたちや難民キャンプの人たちに惹かれた。人は一人では生きてはいけない、助け合って生きていくのだという大事なことを、彼らはそこで学んでいた。子どもというのとはもとも国際的だ。言葉ができなくても、何人かで遊んでいるとすぐ仲良くなる。地位とか宗教、民族ではなく、人間そのものを見ようとする。マスードにしても、アマゾンの先住民や、コンボの人々にしても、みんなそういう「子ども心」を持っていた。けれど、世界の矛盾やゆがんだ世界観が、長年かかって問題を巨大な毛玉に作りあげた。目の前の小さな毛玉ならほぐせるけれど、大きくなりすぎたならばほぐすのは難しい。何とかしないと、子どもたちが生きていけない。先進国からイスラム過激派に加わりようとするなんて、子どもたちも本当に病んでいる……。

今ならば、未だ間に合うはずです。

(FN)

世界歴史大系

李成市 宮崎博史 積谷雄一 編

朝鮮史 1

先史▽朝鮮王朝

A5判 644頁 本体7500円



朝鮮史 2

近現代

A5判 480頁 本体6500円

朝鮮半島の現在と未来を知るために編まれた、最も信頼できる詳細な通史。最新の実証研究に基づき、政治史を軸に社会・経済・文化をバランスよく叙述する。豊富な付録も便利。

ナショナル・アイデンティティを問い直す

川田順造 編 国家単位では敵味方の境界が定かでない戦争と殺戮・破壊が激しさを増す今日、人類史の視野で「ナショナル・アイデンティティ」とは何かを考える。古くて新しい問題群に挑む多文化間比較の試み。
A5判 416頁 本体4500円

グローバル・ヒストリーの可能性

羽田 正編 国際的グローバル・ヒストリー教育研究ネットワークの成果をもとに、アメリカ・ドイツ・フランス・日本におけるグローバル・ヒストリー研究の過程と、新しい歴史研究の方法を紹介する。
A5判 336頁 本体3000円

公職選挙にみるローマ帝政の成立

山川歴史モノグラフ34

丸亀裕司 著

皇帝権力が成立する過程で公職者選出のあり方がいかに変容したか、そして形成過程の皇帝権力がこれにいかに関与したかを通時的に検討し、これまでの先行研究とは異なるローマ皇帝像を描く。
A5判 予280頁 本体5000円

宗教の誕生

宗教の起源・古代の宗教

日本昭男 編 人類の歴史と共にあるフェティシズム・アニミズム・シャマニズムなどに宗教の起源を探り、今は無きメソポタミアやエジプトなど古代の宗教の姿を通して、宗教とは何かを考える。
四六判 320頁十口絵8頁 本体3500円

ワットとステイヴンソン

産業革命の技術者

大野 誠著

動力と輸送を劇的に転換して現代の工業社会を生み出した蒸気機関と蒸気機関車。発明者のワットとステイヴンソンの生涯を追いつながら、これらの発明の基盤を明らかにする。
A5変型判 104頁 本体800円

文学で読む日本の歴史

【戦国社会篇】

五味文彦 著 応仁の乱がもたらしたものと、豊臣秀吉が近代日本の礎をどのように造りだしたのかを記した画期的な書。
四六判 480頁 本体2000円

山川出版社

東京都千代田区内神田 1-13-13

【価格は税別】

電話 03-293-8131 <https://www.yamakawa.co.jp/>

三つのコンセプトで読み解く、新たな東京ヒストリー

東京の歴史

全10巻＊刊行開始 池 享 櫻井良樹・陣内秀信・西木浩一・吉田伸之編

巨大都市(メガロポリス)東京は、どんな歴史を歩み現在に至ったのか。史料を窓口「みる」ことから始め、これを深く「よむ」ことで過去の事実に向り、その痕跡を「あるく」道筋を案内。B5判／各2800円【内容案内】送呈

第1回 通史編 先史時代～戦国時代

3つのコンセプトで読み解く新たな東京ヒストリー。人びとの暮らしや社会の動きに視点を置き、先史から戦国時代の歩みを描く。(通巻1)

通史編(通巻1・3) ①江台時代 ②明治時代 ③現代
 地域編(通巻4・10) ④千代田区・港区新宿区・文京区
 ⑤中央区・台東区・墨田区・江東区 ⑥品川区・大田区・目黒区・世田谷区 ⑦渋谷区・杉並区・練馬区・中野区・板橋区・豊島区・北区 ⑧定立区・葛飾区・荒川区・江戸川区 ⑨多摩摩I・多摩II・島嶼



保科正之

小池 進著 2300円

江戸前期の会津藩主。父は徳川秀忠。将軍家網を後見して幕府支配体制を安定させ秩序化へと導いた。家訓十五ヵ条を遺した。生涯を描く。(人物叢書29)

455 よみがえる古代の港

石村 智著 GIS(地理情報システム)を駆使して全国を探索し土砂が堆積し陸化する前の景観を復元。往來の実態を描く。1800円

456 江戸の出版統制

佐藤至子著 取り締まり対象となった山東京伝の作品など、戯作の文学的魅力と処罰理由を探る。出版統制をめぐる政史。1700円

東北の名城を歩く

飯村 均・室野秀文編 精選した名城五九を紹介する。2500円
 (既刊)南東北編・宮城・福島・山形 名城六六を紹介する。2500円

現代語訳 小右記

5 紫式部との交流 倉本一宏編 2800円

城子立后をめぐる対立する三条天皇と道長。道長と彰子の確執も表面化し、実質は彰子と接触する。その取次役を担ったのが紫式部だった。

日本文化史講義

大隅和雄著 2400円
 重層的な構造を持った日本文化の思想・宗教・文学・芸能など、幅広い事象を講義形式で解説。その複雑な性格と、豊かな内容を解明する。

日本の奇僧・快僧

今井雅晴著 2200円
 道鏡・西行・文覚一休。時代を動かした知的アウトサイダーの実像。

古代地方寺院の造営と景観

梶原義美著 9000円
 前田英之著 8000円

近世日本政治史と朝廷

山口和夫著 9500円
 飯塚一幸著 9500円

明治期の地方制度と名望家

ミュージアム 博物館が本になった!

わくわく探 ねきはく

日本の歴史

全5巻

国立歴史民俗博物館編 第1回配本(発売中)
 日本の歴史と文化を楽しく、やさしく解説した小中学生向けのシリーズ。ジオラマなど図版も満載。各1000円
 B5判【内容案内】送呈

近世

①原始・古代
 ②中世
 ③近代・現代
 ④民俗



吉川弘文館 歴史手帳 2018年版

(価格は税別) 〒113-0033 東京都文京区本郷7-2-8 / 電話 03-3813-9151 代表 日記と歴史百科が一冊となった、便利な手帳。 950円

歴史書懇話会

▶ 会員社名簿 ◀

- 明石書店 101-0021 千代田区外神田 6-9-5 〈担当者：深谷直樹〉
TEL. 03-5818-1171 FAX. 03-5818-1174
- 校倉書房 169-0051 新宿区西早稲田 1-1-3 〈担当者：石田 亘〉
TEL. 03-3203-4851 FAX. 03-3203-4854
- 思文閣出版 605-0089 京都市東山区古門前通大和大路東入元町 355 〈休会〉
TEL. 075-751-1781 FAX. 075-752-0723
- 東京堂出版 101-0051 千代田区神田神保町 1-17 〈担当者：鈴木 淳〉
TEL. 03-3233-3741 FAX. 03-3233-3746
- 刀水書房 101-0065 千代田区西神田 2-4-1 〈担当者：中村文江〉
TEL. 03-3261-6190 FAX. 03-3261-2234
- 同成社 102-0072 千代田区飯田橋 4-4-8 〈担当者：榎 祐典〉
TEL. 03-3239-1467 FAX. 03-3239-1466
- 塙書房 113-0033 文京区本郷 6-8-16 〈担当者：関口守俊〉
TEL. 03-3812-5821 FAX. 03-3811-0617
- 法藏館 600-8153 京都市下京区正面烏丸東入 〈担当者：西村明高〉
TEL. 075-343-5656 FAX. 075-371-0458
- ミネルヴァ書房 [本 社] 607-8494 京都市山科区日ノ岡堤谷町 1
TEL. 075-581-0296 FAX. 075-581-0589
[東京支社] 101-0052 千代田区神田小川町 2-4-17 大宮第 1 ビル 6F
TEL. 03-3296-1615 FAX. 03-3296-1620 〈担当者：須藤 圭〉
- 山川出版社 101-0047 千代田区内神田 1-13-13 〈担当者：菊池敏彦〉
TEL. 03-3293-8132 FAX. 03-3292-2994
- 吉川弘文館 113-0033 文京区本郷 7-2-8 〈担当者：春山晃宏〉
TEL. 03-3813-9151 FAX. 03-3812-3544

2017年11月1日発行・第234号

発行 **歴史書懇話会**

113-0033 文京区本郷 7-2-8 吉川弘文館内
(非売品)

取扱店